

所属・氏名（ 薬学部 薬学科 氏名：田中 満崇 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 予防医学としての衛生薬学 -健康と環境-第4版	共著	2022年6月	廣川書店	山野茂・戸田晶久 編集 (総ページ数:580) 担当部分:母子保健 p89-98。
2 (学術論文) Effects of styrene monomer on a mouse model of atopic dermatitis. 《筆頭論文》	共著	2023年1月	Immunopharmacology and immunotoxicology. 1-6.	プラスチック原料の1つであるスチレンモノマーは、ダニ感作させたアトピー性皮膚炎モデルマウスの皮膚炎悪化を促進させることを明らかにした論文である。 (総ページ数:6頁) (Tanaka M, Inoue K, Honda A, Miyasaka N, Koike E, Yanagisawa R, Takano H) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 Effects of Streamer Discharge on PM2.5 Containing Endotoxins and Polyaromatic Hydrocarbons and Their Biological Responses In Vitro	共著	2022年12月	International journal of molecular sciences. 23(24).	ストリーマー放電は、エンドトキシンや芳香族炭化水素が付着吸着しているPM2.5によって誘導される炎症応答を抑制させることを明らかにした論文である。 (Honda A, Inoue K, Tamura S, Tanaka M, Wang Z, Tanaka T, Hirai S, Okuda T, Ueda K, Takano H) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 Perfluorooctanoic acid (PFOA) as a stimulator of estrogen receptor-negative breast cancer MDA-MB-231 cell aggressiveness: Evidence for involvement of fatty acid 2-hydroxylase (FA2H) in the stimulated cell migration	共著	2022年2月	Journal of toxicological sciences. 47 (4) 159-168.	パーフルオロオクタン酸(PFOA)の刺激によるER陰性乳がん細胞(MDA-MB-231)の細胞遊走活性に脂肪酸2-ヒドロキシラーゼ(FA2H)が関与していることを明らかにした論文である。 (総ページ数:10頁) (Sakai G, Hirao-Suzuki M, Koga T, Kobayashi T, Kamishikiryo J, Tanaka M, Fujii K, Takiguchi M, Sugihara N, Toda A, Takeda S) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 Di-(2-ethylhexyl) phthalate enhances cytokine release from group 2 innate lymphoid cells in the presence of interleukin-33.	共著	2021年10月	Environmental Toxicology and Pharmacology. 87:103726.	環境化学物質のフタル酸エステルは、IL-33存在下2型自然リンパ球(ILC2)におけるサイトカインの産生を促進させることを明らかにした論文である。 (Honda A, Nagao M, Tanaka M, Wang Z, Takano H) 共同研究につき本人分担当部分抽出不可能
6 PM2.5 collected using cyclonic separation causes stronger biological responses than that collected using a conventional filtration method.	共著	2021年7月	Environmental research. 198 110490.	サイクロン式により捕集されたPM2.5は既報により捕集されたPM2.5と比較して強い生化学的応答があることを明らかにした論文である。 (Honda A, Okuda T, Nagao M, Miyasaka N, Tanaka M, Takano H) 共同研究につき本人分担当部分抽出不可能
7 (報告発表) スチレンモノマーの曝露がアトピー性皮膚炎モデルマウスに及ぼす影響	共著	2022年11月	第61回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	スチレンモノマーの反復微量曝露は、アレルギー関連タンパク質やヒスタミン産生を増加させ、アトピー性皮膚炎を悪化させる可能性があることを発表した。 (田中満崇・本田晶子・小池英子・柳澤利枝・井上健一郎・平尾雅代・竹田修三・高野裕久) 共同研究につき本人分担当部分抽出不可能